（別紙様式2）

令和3年度 学校評価報告書

園名	三田市立志手原幼稚園

1　教育目標

意欲的な子･･･どんな遊びも喜んで取り組み力いっぱいがんばる子

やさしい子･･･みんなと仲良く遊びこころ豊かな思いやりのある子

元気な子････明るくよく遊ぶたくましい子

2　今年度の重点目標

『様々な人や友だちの中でつながり合う力を育てる』

～４・５歳児が心を動かし伝え合おうとする姿を支える教師の役割を探る～

４歳児…安心して生活する中で、友だちと関わり合って遊ぶ楽しさを味わう。

５歳児…友だちと思いを受け入れ合いながら、目的に向かって遊びや生活を進める楽しさを味わう。

3　総合的な自己評価

人とつながり合う力を育むために、思いを自分なりに伝えようとする姿を大切にしながら保育に取り組んできた。幼児の内面理解に努め、教師間で連携しながら個々の発達段階や個性、それぞれのもつ課題を理解し、どんな経験をしてどんなことを学んでほしいのかを捉えることで、一人ひとりに具体的な援助ができたのではないかと感じる。友だちと同じ目的に向かって遊びを進めていく楽しさが感じられるような経験を積み重ねていくことで、友だちの存在を認め合う姿につながってきている。次年度も、保護者や地域の協力を得ながら、幼児が友だちと伝え合い、分かり合おうとする姿を支え、育んでいけるように保育の充実を図っていきたい。

4　総合的な学校関係者評価

コロナ禍で思うような保育が十分にはできなかったと思いますが、保護者の皆様の温かい感想を見て、しっかりとした良い保育をされていたのがよく分かりました。色々と制限がある中、子ども達は日々元気に過ごしていますが、どうしても、このような状況が長く続くとマイナスに考えてしまいがちです。子ども達はいつも好奇心旺盛で、色々な小さな発見も見逃しません。そんな発見した宝物を、子どもの気持ちに寄り添い、周りでサポートしながら大切に守ってあげられる環境作りを心がけていければと思います。また今後、with コロナの中、どのような交流の仕方があるか、新しい形態を開発する必要があると思います。

5　評価結果

自己評価				学校関係者評価
分野・領域	評価項目（取組内容）	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育課程	○学びに向かう力を豊かに育む保育内容の充実 ・幼児の内面理解を深め、4、5歳児それぞれの発達過程を保障しながら、見通しをもった保育計画を立て、実践していく。	・一人ひとりの内面理解を深め発達段階を丁寧に捉え、育ちの姿に願いと見通しをもった保育計画を立てた。異年齢の小規模集団で幼児の育ちをどう保障するか、活動内容を試行錯誤しながら進めてきた。	・次年度も、一人ひとりの発達段階を丁寧に見とりながら、見通しをもった保育を展開していけるようにしていきたい。	・一人ひとりの内面理解、発達段階を見とりながらの保育は異年齢で難しいと思いますが、とても丁寧にされていて素晴らしいと思います。 ・初めての集団生活で子ども達は戸惑う場面が多い中、手厚い保育で関わられていたと思います。
	・幼児が主体的に動き出せるような環境構成の工夫をし、遊びを支える教師の援助の質を高めていく。	・幼児が心を動かし、やりたいことに向かって友だちと伝え合おうとする姿を支える教師の援助について探ってきた。適切な環境構成の工夫と幼児への遊びの意欲づけ、振り返りなど丁寧に取り組むようにした。	・幼児一人ひとりの課題を見とり、どのような経験をさせ、どう育んでいきたいのか意図とねらいが揺らぐことがないように、教師間でも常に話し合い、連携して保育に取り組んでいきたい。	・昨年度はコロナ禍ではありましたが園での楽器遊びや劇遊びの会を見せていただくことができました。今年度はそのような機会も少なく残念でした。月に一度の保育中の「絵本の部屋」は何度かは行うことができ、子ども達の表情を見ることで日々の成長している姿に喜びを感じると共に、こちらも元気をもらいました。先生方のきめ細やかな保育をされている姿から、子ども達の熱い思いが感じられました。
	・教師間の連携を図り、幼児の姿を多面的に捉え、共有していく。	・日々保育を振り返り、教師間の話し合いを積極的に進めながら幼児理解を深めてきた。幼児の姿を多面的に捉えて伝え合い、よりよい育ちに向けて考え合うことができた。	・次年度も日々のカンファレンスを丁寧に行い、一人ひとりの幼児の姿と育ちの足跡を共有しながら保育を進めていきたい。	
子育て支援	○親と子がふれあい、仲間作りができる場作りの工夫 ・未就園児の保育体験の場としての園児との交流の場の工夫	・コロナ禍の中、計画通りの回数を実施することはできなかったものの、園庭やテラスを利用するなど感染対策を工夫して場作りをした。園児が友だちと相談しながら遊んできたものを体験してもらうなど、ねらいをもって、活動内容を工夫した。	・子育て支援事業の時間だけにとどまらず、子育て中の保護者が相談したり気軽に話をしに来たりできるような雰囲気作りに努めたい。	・子育て中の保護者が相談できる、気軽に話をできる雰囲気になっていると思います。 ・保護者サークルを通して、穏やかなつながりがこれから先も続いていくことと思います。志手原は少人数ですが、だからこそきめ細やかな対応ができるのだと思います。ぜひこのような憩いの場を大切にしていってほしいです。また、気負わずに参加できる、参加しなくても負い目を感じないようなものになれば継続しやすいと思います。
	・親同士が安心して集い、つながりを育むことができる場作りの工夫	・保護者サークル「ひだまり teTote」の立ち上げや運営をサポートし、つながりを育む場作りに努めた。保護者有志と園児でしめ縄作りをするなど、サークル活動から波及して新たな取り組みもできた。	・いつでも誰もが安心して集える場であるような温かい雰囲気作りに努めたい。気負わず無理なく参加できるような活動にするなど、保護者やボランティアの人と相談しながら丁寧にサポートをしていきたい。	
保護者・地域住民との連携	○園運営や園行事への保護者や地域住民の参画の促進 ・園の取り組みや幼児の育ちの情報発信の工夫	・通信や掲示、登降園時の直接的な対話を通して、園の取り組みや教師の願い、個々の幼児の育ちや学びの姿を伝えるよう心がけた。写真を使ったドキュメンテーションを作成し、もっとタイムリーに遊びの様子やねらいなどを伝えていきたかったが十分な回数は重ねられなかった。	・次年度も誠実かつ丁寧な対応を心がけ、通信やドキュメンテーション、登降園時の直接的対話などを通してタイミングを逃さず伝えていきたい。次年度も月2回は通信を発行できるように心がけるとともに、ドキュメンテーションは今年度より少しでも作成回数を増やせるように努めたい。	・コロナ禍では体験活動やふれあいは難しかったと思います。その中でも色々な工夫をして活動されていたと思います。毎回園だよりを送って下さり、楽しみに見せていただきました。
	・地域と連携したふれあいや体験活動の工夫	・コロナ禍の中、体験活動ができる場はもちにくかったものの、地域の人の協力を得ながら継続した自然体験活動ができた。昨年度はできなかった老人会との交流も、感染状況を鑑みながら工夫して行った。園庭を利用するなど、どのようにすれば会がもてるか、感染対策を講じながら多様な形の模索に努めた。	・コロナが落ち着き次第、オープンスクールの情報発信を工夫するなど、地域の人に来園していただける機会を増やしたい。地域の人の愛情を感じられるふれあい体験を進めていきたい。	・地域の方との交流、協力も素晴らしいですね。志手原は環境に恵まれた場所なので、このような状況であっても近隣には農園や畑があります。いつでも受け入れてもらえ、自然とふれ合える機会がたくさんあることは子ども達にとってとても貴重な経験になると思います。
学校園所連携	○幼小中連携推進と小学校との円滑な接続をめざした取り組みの推進 ・小学校との様々な交流活動や職員連携の工夫	・運動会や音楽会などの行事を合同で行うことにより、学校生活への見通しをもつことができ、交流を深めることができた。幼児が主体的に計画して1年生と5年生を自分たちの遊びに招待したり、園内研究会に小学校職員を招待するなど、幼児教育の理解推進に努めた。	・交流の中で得られる楽しさや学びを整理しながら、発達段階を捉え、学びの連続性を意識した互恵性のある交流活動をしていきたい。職員同士もつながり、連携推進に努めたい。	・小学校と一緒に運動会や音楽会をすることによって学校のことが見えて良かったと思います。保護者も交流がもてました。1年生と5年生との交流会は、小学生もとても楽しそうでした。志手原ならではのファミリーのような関わり、嬉しいです。 ・子ども達はお兄さんお姉さんを見て「自分もこのようになりたい」「こんなことができるようになりたい」と憧れをもち、それが自分にもできるんだという自信につながっていくと思います。とても大切な経験なのでぜひ続けていってほしいです。
	・中学校区連携推進への参画	・中学校区内3園が集まる交流会や中学校との交流会はもてなかったが、感染状況を鑑みながら小野幼稚園との交流会をもつことができ、人と関わる力を育む有意義な場作りとなった。	・次年度も義務教育の終わりの15歳までの育ちと学びをつなぐ視点を明確にしながら、互恵性のある交流の充実に努めていきたい。コロナの感染状況を見ながら、中学校や中学校区3園との交流会を計画していきたい。	

※　行は、適宜加除願います。